

各分野の目標達成状況＜ I 生活環境、産業分野＞

柱1 安心・安全な地域づくり

◆主な取り組み

【個別目標①】災害への備えが行われている

(市民)

- ・災害発生時に効果的な対応ができるよう、自主防災会が主体となって、地域の実情に合った防災訓練を行いました。
- ・防災意識の高まりから各家庭で、避難の際の非常持ち出し品や食料などを準備し、災害の備えを行いました。

(市役所)

- ・自主防災会の資機材等購入に対する助成と災害時要援護者用資機材として車椅子に対応できる仮設トイレなどの整備を図りました。
- ・備蓄用食料として食物アレルギーのある方にも対応したアルファ米を購入し、災害時の対応の充実を図りました。

【個別目標②】地域の防犯体制が整い、犯罪が減っている

(市民)

- ・地域安全パトロール隊として定期的に地域のパトロールに参加しました。

(市役所)

- ・地域安全パトロール隊へ支援を行い、未結成地区にパトロール隊の設立を促進しました。

【個別目標③】交通事故が減っている

(市民)

- ・江南市女性交通安全クラブ員として交通安全キャンペーン、広報活動に参加しました。
- ・江南市交通安全推進協議会の委員として街頭監視活動に参加しました。

(市役所)

- ・交通安全県民運動に併せ街頭啓発・広報を実施しました。
- ・交通事故死0の日に街頭監視活動を実施しました。

◆主な成果

- ・自主防災訓練、地域防犯パトロール活動により、地域の防災・防犯意識が高まってきたこと。

◆主な今後の課題

- ・地域の防犯・防災機能が低下しないよう、地域力を向上させる必要があること。

柱2 消防・救急体制の充実

◆主な取り組み

【個別目標①】消防・救急体制が充実している

(市民)

- ・消防団車庫、事業所等のポスター、江南市のホームページ、回覧板、分団員の家庭訪問などにより、消防団員の募集を知り、団員を確保できるよう積極的に協力しました。

(市役所)

- ・消防団車庫、事業所等へのポスターの掲示、江南市のホームページへの掲載、区長・町内会長へのお願ひ文書、各家庭への回覧板により、消防団員募集に努めました。
- ・耐震性貯水槽・消火栓を設置するにあたり、消防水利の包括されていない地域を選定することにより、消防水利の充足率に努めました。
- ・高規格救急自動車に同乗する救急救命士を増員することにより、市民の安心・安全の向上に努めました。

【個別目標②】防火対象物や危険物施設などの安全対策指導が徹底されている

(市民)

- ・防火管理者が必要な事業所にあつては、防火管理者を選任し、消防計画を作成することにより、その計画に沿った防火管理ができ、火災の発生を未然に防ぐことができました。
- ・危険物施設等の立入検査を受け、危険物の貯蔵・取扱いの不備を知り、その改善を図ることにより、危険物に起因する火災・漏洩事故などの災害を未然に防ぐことができました。
- ・住宅の寝室及び台所に住宅用火災警報器を設置することにより、火災の発生を初期に知ることができ、安心して生活を送ることができました。

(市役所)

- ・防火管理講習会を開催し、防火管理者の資格を取得していただき、消防法違反となる防火管理者未選任の事業所を少なくすることに努めました。
- ・危険物施設等の立入検査を実施し、危険物の貯蔵・取扱状況の不備改善を指示し、危険物に起因する火災や漏洩事故などの災害を防ぐことに努めました。
- ・住宅用火災警報器の必要性を、広報誌・懸垂幕・のぼり、車両広報・街頭啓発・立入検査等で、幅広く市民へ周知し、住宅用火災警報器の設置率向上に努めました。

【個別目標③】 救急・救助や消火活動において、迅速・的確に対応している

(市民)

- ・救命講習を受講し、応急手当の重要性を理解することにより、救急現場において、心肺停止状態の傷病者へ、積極的に心臓マッサージを施すことができました。

(市役所)

- ・市民に対して、応急手当の普及啓発を行うため、普通救命講習や基礎救命講習を実施し、心肺停止状態の傷病者への心臓マッサージなどの重要性を訴えることに努めました。
- ・薬剤投与の認定を受けた救急救命士を多数育成することにより、救急現場にて薬剤投与を施し、救命率を向上させることに努めました。

◆主な成果

- ・消防・救急体制の充実強化が図られ、市民と共に講習会や訓練を実施することにより、災害活動に迅速、的確な対応ができるようになったこと。

◆主な今後の課題

- ・消防の広域化やデジタル無線化など、さらなる消防体制の充実を図る必要があること。

柱3 快適で便利な日常生活の確保

◆主な取り組み

【個別目標①】 専門家による相談を受け安心して暮らしている

(市民)

- ・消費生活講座に積極的に参加しました。
- ・専門的な知識をもった相談員に相談しました。

(市役所)

- ・自立した消費者を育成するため、消費生活講座を開催しました。
- ・地域情報センターで幅広い相談コーナーを開設しました。
- ・広報、ホームページを始め、本庁と情報センターに設置した消費生活情報掲示板などで啓発を行いました。

【個別目標②】 身分等が正確に記録・管理され、市民は窓口サービスを迅速に受けている

(市民)

- ・証明書等の交付を請求したが、迅速な対応で早く受けることができました。
- ・日曜市役所及び電話予約により執務時間外でも証明書等の交付を受けることができました。

(市役所)

- ・窓口では異動届の処理及び証明書の交付について正確に事務処理を行いました。
- ・日曜市役所を月2回開設、電話予約では住民票及び戸籍附票を交付し、休日・夜間でも証明書等の交付ができる体制を整えました。
- ・通訳を配置し、外国人登録を正確に行うと共に、各種行政サービスについて案内をしました。

【個別目標③】 市民の足が確保できている

(市民)

- ・路線バスを出来る限り利用しました。
- ・いこまいCAR（定期便・予約便）を積極的に利用しました。

(市役所)

- ・路線バス存続のための利用促進を図りました。
- ・いこまいCAR（定期便・予約便）の利用促進を図りました。

◆主な成果

- ・戸籍の電算化により、窓口の待ち時間が短縮したこと。
- ・いこまいCAR予約便により、交通空白地域の解消に向け前進したこと。

◆主な今後の課題

- ・市民が安心して窓口サービスを受けられるような体制を整える必要があること。
- ・いこまいCAR予約便の利用者増による市負担額の増について対応方法等を検討する必要があること。

柱4 生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興

◆主な取り組み

【個別目標①】魅力ある商工業の成長により、活気のある地域社会になっている

(市民)

- ・商工会議所と連携して開催している経営等講習会に参加するなど、活力ある事業所づくりに努めました。

(市役所)

- ・県と協調して商工業振興資金融資制度を設けるとともに、信用保証料等の助成を行い、中小事業者の資金繰りや経営安定に向けた支援を行いました。

【個別目標②】コミュニティビジネスが活発に起業され、地域のニーズに合ったサービスが地域で供給されている

(市民)

- ・講座に参加し、コミュニティビジネスへの理解を深めるとともに、コミュニティビジネスの事業所を訪問し、起業への意識を高めました。

(市役所)

- ・市民にコミュニティビジネスへの理解を深めてもらうとともに、起業をイメージしていただくため、コミュニティビジネスの事業所訪問を含めた講座を開催しました。

【個別目標③】地域に雇用の場が確保され、いきいきと働いている

(市民)

- ・江南市地域職業相談室はハローワーク犬山と同様な求職情報や相談機能を有するなど利用環境が整っており、多くの市民が利用しました。
- ・就職フェアにおける合同企業説明会、セミナーなどの開催により、求職活動中の若者などが参加しました。また、地域における就業支援への関心が高まりました。

(市役所)

- ・江南市地域職業相談室に嘱託員1名を配置するなど年齢に関係なく求職者に対する職業相談、職業紹介業務の効率的な運営を支援しました。
- ・県、近隣市町、商工会議所などとの共催による若者就職支援「就職フェア」を開催しました。また、「若者就職相談」臨時窓口を開設し、就職活動に関する悩みなどの相談に応じました。

【個別目標④】農業用施設が常時利用でき、農業従事者が安心して農業に従事している

(市民)

- ・地域ごとに、水路等農業用施設の清掃、草刈等を実施しました。
- ・遊休農地の管理を実施しました。市民菜園において野菜づくりを体験しました。
- ・地産地消への取り組みを実施するとともに、農畜産物をJA愛知北を通じて市場へ出荷しました。

(市役所)

- ・ 稲作・畑作のための農業用水の通水や施設の維持管理を実施しました。
- ・ JA 愛知北と連携を図り、担い手のある農家へ農地の集積を促進しました。
- ・ 遊休農地の有効利用を図るため、市民菜園を拡大しました。また、新しい担い手の発掘と後継者の育成を図るため、農業体験実践講座を開催しました。
- ・ 市民農産物秋の収穫祭を開催し、農産物の品評会や江南産農産物を使った料理の試食を行い、江南産農産物を PR し地産地消を推進しました。

[個別目標⑤] 市民は地域の観光資源に親しみ、多くの観光客が訪れて、地域が活性化している

(市民)

- ・ 運営協議会などの構成員やボランティアとして、また、一市民としてイベントに参加することにより、観光施設で観光客と接する機会を得ました。
- ・ 観光案内ボランティア、清掃ボランティアなどで観光施設との関わりを持つとともに江南市の観光 PR にも努めました。
- ・ イベントボランティア会員の募集を行った。また、市から要請により催事へ参加しました。

(市役所)

- ・ 報道機関、旅行社などへ観光キャンペーンで訪問し、藤まつりと江南の観光を紹介するなど観光客の誘客に努めた。また、おもてなしの心で観光客を迎えられるよう市民にも協力を求めました。
- ・ ホームページ、報道機関、各種情報誌、愛知県観光協会などを通じての観光情報発信により、観光客の誘客に努めた。また、観光ガイドブック、観光チラシを配布するなど観光を PR しました。
- ・ 市が主催または共催する催事への参加協力をイベントボランティア協会へ要請するとともに協会事業の運営を支援しました。

◆主な成果

- ・ 景気の落ち込みに伴い、中小事業者支援や失業者支援を行ったこと。

◆主な今後の課題

- ・ 産業の活性化と観光客の誘客を図る必要があること。

柱5 自然と調和した快適な生活環境の確保

◆主な取り組み

【個別目標①】環境保全の意識が高まり、環境負荷の少ない生活・活動を営んでいる（市民）

- ・循環型社会の形成を目指し、限りある資源の有効活用を図るよう日常生活を見直すとともに、省エネルギー行動などの実践に取り組みました。
- ・住宅用太陽光発電システムなどによる自然エネルギーの有効利用、自動車の利用を控え、自転車や公共交通機関の利用、省エネルギー型商品の利用に努めました。
- ・公共下水道が整備されている区域は、速やかに接続し、未整備の区域については、合併処理浄化槽への転換を図り、適正な維持管理に努め、河川等の水質汚濁の防止に努めました。

（市役所）

- ・限りある資源の有効活用を図るため、ごみを資源として活用し、資源の循環利用として活用する手順や省エネルギーに関する情報を広く市民に提供するなど、環境啓発に努めるとともに、環境教育にも力点を置き事業を推進しました。
- ・省エネルギーを推進し、温室効果ガスの削減に努めました。また、住宅用太陽光発電システムの設置費用の一部を補助しました。
- ・公共下水道整備の推進及び速やかな接続の推進を図り、下水道の認可区域以外には合併処理浄化槽設置の推進を図るため、新たに設置する市民に対し、設置費用の一部を補助することにより、河川等の水質汚濁の防止に努めました。

【個別目標②】公害苦情等が少なく、生活環境が保全され快適な生活を送っている（市民）

（市民）

- ・日常生活を営むうえにおいて、近隣の生活環境を損ねることのないよう、お互いが近隣の生活に配慮した生活を送るよう心がけました。

（市役所）

- ・生活環境の向上に関する積極的な啓発、パトロールを実施しました。

◆主な成果

- ・地球温暖化防止や環境問題に対する取り組みを市民に啓発し、市民の環境保全に対する意識が向上したこと。

◆主な今後の課題

- ・自然と調和した快適な生活環境を確保するためには、市民一人ひとりの生活環境に対する意識の向上が必要であり、また事業所においても周辺の生活環境に対する配慮が必要であるため、啓発活動を強化する必要があること。

柱 6 ごみ減量と適切な処理の推進

◆主な取り組み

【個別目標①】リサイクルが進み、市民が出す可燃ごみ量が減っている

(市民)

- ・ごみ減量「57運動」に協力し、市民一人ひとりがごみ減量を目標に、買い物にはマイバックを持参し、ごみを分別することにより、ごみの削減に努めました。
- ・市が開催するボランティア分別指導員養成講座を受講し、地域の資源ごみ収集場所における分別指導に協力しました。

(市役所)

- ・廃棄物減量等推進協議会及び廃棄物減量等推進員と連携し、ごみ減量「57運動」、4R活動の推進を図りました。
- ・市に登録されたボランティア分別指導員に対して、分別収集についての意見交換を行い、意識の高揚を図りました。

【個別目標②】ごみ、し尿、火葬が適正に処理され、市民の生活環境が保全されている

(市民)

- ・クリーン運動に積極的に参加し、散乱ごみの収集を行い、ごみのないまちづくりに取り組みました。
- ・ごみ出しのルールを正しく理解するとともに、地区の集積場所の管理を責任をもって実施しました。

(市役所)

- ・広く市民参加を呼びかけてクリーン運動を実施し、各地域でのボランティア団体やアダプトの清掃活動を支援した。また、不法投棄防止のためのパトロールや看板貸与を実施しました。
- ・出されたごみをその日のうちに速やかに回収し、処理することで、ごみの無い衛生的な環境の保持に努めました。

◆主な成果

- ・ごみ減量 57 運動により可燃ごみの量が減ってきたこと。

◆主な今後の課題

- ・環境に配慮したライフスタイル、ごみのさらなる減量・リサイクルを推進するため、市民一人ひとりの意識づくりをする必要があること。